学校番号	107

令和８年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「美術２」　（光村図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」など、多種多様な作品を知り、自身の表現を深めていきます。

・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

１）対象や事象を捉える造形的な 視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造 的に表すことができるようにする。

２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

３）主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の 意図と創造的な工夫、美術の働 きなどについて考え、主題を生 成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	よく「みる」	手の写生 「割り箸ペン」 「インク」	a:一番身近な「自分の手」をしっかり観察し、捉えられている。 b:対象を凝視し、形だけでなく質感や存在感を表現できている。 c:割り箸ペン独特の、滲んだり掠れたりするタッチでの描写を工夫している。	作品	作品	制作の様子・振り返りプリント
	よく「みる」	自画像 鉛筆描写による自画像。	a:見慣れた「自分の顔」を今一度凝視し、その造形を描出できている。 b:「こういう形をしているんだ」という発見をし、自分の顔パーツの特徴を掴んでいる。 c:鉛筆でのタッチに留意し、「塗る」ではなく「描く」ことを意識している。	作品	プリント 作品	制作の様子・振り返りプリント
	水彩絵の具を学ぶ	色彩 ・水彩絵の具の混色や色味をプリントで学ぶ ・自画像に着彩する。	a:水彩絵の具の特徴を掴み、水分量や混色で生まれる色を把握している。 b:肌の質感や髪の質感を水彩絵の具のみで表現する。白と黒を使用せず、混色で黒を作るにはどうすればよいのか考えている。 c:１年で学んだアクリルガッシュ絵の具との違いを感じられている。	作品	プリント 作品	制作の様子・振り返りプリント
	アバター	自身のキャラクター化によるアバター制作。 先の自画像を元に、自身をデザイン化し、色紙の切り絵にて制作する。	a:写実的だけではない、楽しい表現工夫ができている。 b:自分の特徴を捉え、強調したり省略したりして、より「似てる」状態を探ることができている。鑑賞時に他の生徒の作品の良さを感じとっている。 c:ハサミ・カッター・デザインナ	作品	作品 作品コンセプトシート・鑑賞シート	制作の様子・振り返りプリント

			イフ・マスキングテープ等々、様々な道具･材料を使用し､｢自分｣を創り上げることができている。			
	多色刷り浮世絵	多色刷り浮世絵 ベニヤ板を彫り、 4版刷りの木版画を制作する。	a: 彫刻刀を用いて丁寧に版を完成させることができている。 葛飾北斎や歌川広重などに江戸時代から仕様されてきた技法であることを知り､作品を完成させることができている。 b: 透明度の高いインクを用いて版を４回重ねた際､画面がどのように完成するのかイメージできている。 c:何度も刷りながらインクの調子やズレを自分の求める完成図に近づけるような工夫をしている。	作品	作品 プリント	制作の様子・ 振り返りプリント
後期	点描画	点描画 ｢つけペン｣ ｢インク｣	a:普通に「描く」のではなく、点の集積で画面が出来上がっていくことを理解しながら制作できている。 b:白黒の画面の中でペンの強弱や点の大小を考え､美しく見える描写方法を工夫できている。 c:白黒で分割された画面処理に留まらず､いかに見本に近づくか追及できている。	作品	プリント 作品	制作の様子・ 振り返りプリント